

御船の滝

御船の滝は、地元では季節の名所として知られている。夏に雪が消えると、少し歩くと、苔むした木々や小川を通り抜けて滝のふもとまで行くことができる。尾根の高い位置にある滝は、50メートルの崖から流れ落ち、広範囲に水しぶきを巻き上げる。滝の下では水が渦を巻いており、尾根を伝って流れ落ち、やがて見えなくなる。

冬には、気温と風の状態が整うと滝全体が複雑な氷柱となる。山道までの道路は、冬に積

雪が深くなるため閉鎖されるが、装備を整えたハイカーであれば、この約3キロの道のりを約1時間で歩くことができる。御船の滝は、1月後半から2月初旬にかけて頻繁に凍る。

御船の滝は、日本最古の文献である古事記に712年に初めて記録された井氷鹿と呼ばれる地域にある。その文章には、伝説上で初代天皇とされている神武天皇が、都を建てる場所を求めて南西から旅をした様子が描かれている。その旅の途中で、神武天皇は井氷鹿という名の神秘的な神が現れた光り輝く井戸に出くわし、その神が道案内をしたとされている。